

# 2018年1月19日 第3229回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 小林 会長

<斉 唱> 「手に手つないで」

<ゲスト紹介> \*衆議院議員 小泉 進次郎 様

\*内田屋書房代表取締役社長 内田 喜康 様

<ビジター紹介> \*横浜北ロータリークラブ パスト会長 山村 信一 様

\*かながわ湘南ロータリークラブ 出口 律子 様

\*三浦ロータリークラブ 副幹事 奥山 浩司 様

\*横須賀西ロータリークラブ 会長 嘉山 賢 様

副会長 長島 澄雄 様

パスト会長 桐ヶ谷 主税 様

\*横須賀南西ロータリークラブ 会長 菅原 英明 様

副会長 長瀬 弘 様

\*かながわ2780REC 会長 原 いづみ 様

<会長報告> \*岡田副会長より第1グループ三役会報告

\*第7回理事役員会報告

\*ガバナー事務所より

・米山奨学金終了学生終了式/歓送会開催のご案内について

2月18日(日) 14:30~受付 15:00~16:00 終了式 16:00~18:00 歓送会

<委員長報告> \*インターアクト委員会高橋委員長よりインターアクト海外研修旅行報告

\*増田会員より新会員の集い報告

\*ローターアクト委員会小山委員長より横須賀RAC例会案内について

<幹事報告> \*週報・・横須賀西RCより 着

\*「スカウトよこすか」 うみかぜの路クリーン作戦開催日訂正

(誤) 3月12日(日) ⇒ (正) 3月11日(日)

<出席報告> \*出席委員会 福西副委員長より1月19日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
114名	102名	77名	25名	3名	78.43%

<ニコニコ報告>

・内田屋書房代表取締役社長 内田 喜康 様 よろしくお願ひいたします。

・山村 信一 様 (横浜北RC) 初めてお伺ひいたしました。よろしくお願ひ致します。

・出口 律子 様 (かながわ湘南RC) 横須賀クラブの皆様こんにちは。今日はメイクさせて頂き有難うございます。2月23日の例会にもおじゃまさせていただきますので宜しくお願ひ申し上げます。

・奥山 浩司 様 (三浦RC) 久しぶりに参加させて頂きます。

・嘉山 賢 様 (横須賀西RC) 本日は宜しくお願ひ致します。

・長島 澄雄 様 (横須賀西RC) 本日、宜しくお願ひ致します。

・桐ヶ谷 主税 様 (横須賀西RC) 小泉進次郎氏の講演を聞きにきました。いつも大変お世話になっています。

・菅原 英明 様 (横須賀南西RC) 久しぶりにお伺ひしました。よろしくお願ひします。

・原 いづみ 様 (かながわ2780REC) 年が明けてもうしばらく経ちますが、本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

・三 役 衆議院議員 小泉進次郎様、本日はようこそお越しくださいました。卓話よろしくお願ひします。

- ・丸山、吉田、谷、猿丸、瀬戸、小佐野、福西、渡邊、高橋、波島、新倉、鈴木、徳永、岩瀬、薦野、新倉、長坂、越川、明野、井苺、北村、田邊、勝間、鈴木、若麻績、根岸、澤田、門井、前川、齋藤、上林、高橋、秋本、山下、外木、齋藤、飯塚、江沢、長澤、平松、前田、鈴木、長尾、町田、石田、藤原、八木 各会員  
衆議院議員 小泉進次郎様、力強い卓話、期待しています。
- ・小林 会長 山村信一様、内田喜康様、横須賀までようこそお越し下さいました。どうぞお楽しみください。
- ・三 役 本日、多くのビジターにお越しいただきありがとうございます。最後までゆっくりにお楽しみください。
- ・鈴木、松村、吉田、新倉、齋藤、前川、高橋、原田、山下、飯塚、江沢、岡、齋藤 各会員  
ビジターの皆様ようこそお越し下さいました。ごゆっくりにお過ごし下さい。
- ・渡辺 会員 横須賀南西ロータリークラブ会長菅原様、ようこそお越し下さいました。ごゆっくりにお過ごしください。
- ・齋藤、曾我 両会員 誕生月祝いとして
- ・清水 会員 入会月祝いとして
- ・井苺 会員 本校中学生の職業体験学習、大変お世話になります。よろしくお願ひ致します。
- ・臼井 会員 新会員の集いに参加させて頂きありがとうございます。これからどんどんロータリーを好きになっていこうと思います。
- ・若麻績 会員 写真をいただいて

## <卓 話> 「日本も横須賀も、こんなもんじゃない」

衆議院議員 小泉 進次郎 様

みなさん、こんにちは。いつもお会いしているみなさんばかりですが、今日はお招きいただき、ありがとうございます。今、ニコニコというものを聞いていましたら、隣から岡田さんが「ニコニコは一人1000円なんです」と教えてくれました。このシステムはいいですね。国会でも野次1回1000円にしたら、野次がなくなるのではないかと聞いていました。

今日はこんなに大勢の方に集まいただきましたが、今の時代これだけ人が集まるのは、貴乃花親方ぐらいではないかと思ひます。私は農林部会長で農協改革と向き合いましたが、相撲協会は農協改革を進めるより難しいと思ひます。相撲の世界では当然なのかもしれませんが、どう考えてもおかしいと思ひたことは、立行司が部屋付きということです。プロ野球で言うと、今日の試合の審判は巨人付きということです。そうしたら際どい判定の時「今日の行事は宮城野部屋の審判だから」となるわけです。この話を最近、相撲に詳しい方にしたら「この疑問自体が新鮮だ。確かに言われてみたらそうだね」と言われました。ここからわかることは「世の中の常識は常に疑わなければならない」ということです。その業界やその世界にいと、力できる。または日系企業が多く進出している地域の公衆トイレを日本の最先端のものに変える。日本の企業のおかげでこんなにいいトイレができたとなると、感情面でプラスとなり、将来的にはビジネスにも大きく影響すると思ひます。経団連の業界の方に、その話をしたところ、トイレ革命に日本として協力しようとなり、動き出しました。

これを考えた一つの理由は30年後の世界を見ていくと「100対30対1」なのです。これは30年後の人口です。地球の人口は約3割増加して約100億人です。中国とインドの合計が30億人。日本はというと3割減って1億人です。みなさん、ビジネスはどこでやりますか。1億のフィールドか、30億のフィールドか、100億か。私ならまず30億で勝負すべきと思ひます。これからはアジアが世界経済の成長の先端です。これからは東京の企業が世界に出ていくのではなく、横須賀であろうと三浦であろうと、仕事があるところであればどこにでも出ていくという環境をつくっていく必要があります。だから、世界を

常に考えられる視野を持った若い人たちがもっと出てきてほしい。横須賀も今後どう考えても40万人の人口を維持していくことはできない。だとしたら、もっと大きな発想で「東京都横須賀区」として東京圏というフィールドで生きているという発想が大事なのではないでしょうか。

教育改革として「人生100年時代」の中で私がやりたいことは、国費で海外留学を推進していきたい。リスクをとる人を国は応援するという意思を明確にするべきです。今はインターネットでなんでもつながるし、かつてより海外への憧れがなくなってきています。今の不安定な社会で、日本ほど安全な国はどこにもない。だから、リスクを取る人が年々減っています。これは合理的ですが、日本にいただけではわからないことはたくさんあります。そういう中だからこそ、リスクをとる人や外に出ていく人をもっと国は応援すべきです。また最近の「働き方改革」にも考えることがあります。横須賀のコンビニ経営者に「この2年半、休んだことがないです」と聞いて、驚きました。個人経営者ですから、労働基準法は関係ないのですが、この春でもう3年休んでいないそうです。

なぜ「働き方改革」をするか、皆さんは腑に落ちていますか。この言葉自体も変えるべきだと思っていますが、「人生100年時代」で今までと同じように80年の人生設計では、日本の発展はないと思います。そして一人ひとりの幸せもない。だから働き方自体を変えていかないといけない。どういう人生を歩んでいきたいのかを考えてほしいから、政府は「働き方改革」をやっているのです。しかし今は「長時間労働＝悪」というところで止まってしまっています。それから「プレミアムフライデー」。死語になって今は聞かなくなり、ある意味で「プレミアム」なのかもしれませんが（笑）。私は24時間社会こそ、見直すべきところではないかと思えます。タクシーは深夜料金があります。横須賀は23時（または22時）で深夜料金になります。だとしたらコンビニも深夜料金を導入したらいいと思います。23時以降はタクシーと同じように、ジュース300円とか、150円で買いたい人は昼間買いに行けばいいのです。これは深夜に働く人への対価です。また、もし深夜営業や24時間営業をしたいならば無人化を導入するべきです。無人化ならば通常料金とする。そうすれば無人化システムの投資が進む。昼間働き夜は寝るという当たり前のことができる日本に、一人ひとりがもっと考えるべきではないかと思っています。すでにそれをやっている町があります。長野県軽井沢町では、別荘地に24時間営業はそぐわないと町で決め、コンビニは深夜営業をしていません。横須賀ももっと考えるべきだと思います。どんなにおしゃれな街をめざしても、横浜や東京にはかなわない。そこで競争するなど愚の骨頂です。だとしたら、東京から1時間の距離だから「海の軽井沢」を目指してみてもどうですか。

これらを考えるきっかけとなったのは、「もし自分が中国の習近平やロシアのプーチンなら、何を考えて日本と付き合うか」と考えたことです。日本には笑顔を振りまきながら、譲歩することはせずできる限り長くいい人のふりをして時間を稼ごうとするでしょう。理由は、日本は時間がたてば経つほど人口が減ります。だとしたら、日本が決定的にそういう状況に落ちるまでいい人のふりをして、大きな譲歩は絶対にしない。ロシアを見てください。北方領土を返す気がありますか。日本は経済協力をしたら、もしかしたら返してくれるかもしれないと思っている人もいますが、本当にそうでしょうか。中国を見てください。だんだん安倍総理と会う時の習近平が笑顔になっています。笑顔で握手をしながら左手には違うものを忍ばせている。これでは日本は苦しい。だとしたら日本は何をしなければならないのか。日本の将来を考えたら、力を付けるから今取引したほうが得だと、相手に思ってもらうように変わらなければなりません。だから、自分の力や

当たり前と思いこんでいることが、一般常識からみると全く常識外れということがあります。これは政界にもあるし、それぞれの業界にもあると思います。本日は「人生100年時代」のキーワードでお話をします。これからの時代に今のままの姿で成長できるのか。それとも成長のためには変わらざるをえないことがあるのか。「その枠組み自体を変えていかなければならないのではないのか」ということを問い直す必要があるのではないのかというのが本日のメインメッセージです。

結論から言うと、私自身も今変えようとしています。最近いろいろな方にお会いしました。昨日は来日中のオーストラリアのターン



ブル首相と朝食会で意見交換をし、昼食はユニクロの柳井正社長と一緒にしました。有明の新オフィスを案内していただきながら、ユニクロは今何を考えているかを聞いてきました。昨年には、トヨタの豊田章男社長から、トヨタは今何を考えているのかを聞きました。また、最近対談したい相手として名前をあげた作家の塩野七生さんと一年越しで対談することができました。古代ギリシア、ローマの歴史をずっと執筆されてきた塩野さんから見て、今の日本の政治や小泉進次郎をどう思うか率直にお伺いしました。その中で感じたことは、「今の私のままではいつか限界がくる。壁にぶつかる。だから、自分を変えなければいけない」という、強烈な危機感でした。これは今お話ししたオーストラリアの首相、柳井社長、豊田社長全員に共通しているのです。最近、豊田社長が言ったことは「今の時代は勝つか負けるかではない。生きるか死ぬかだ」です。柳井社長も同じことを言っていました。私も今の日本のことを考えると、日本が成長するかではなく、将来も日本はあるかなということなのです。最近「何をやるか」も大切だが「何をやらないか」も大事だと思っています。いくら努力をして愚直にやっても努力の方向性が間違っていたら、その努力は無駄なのです。

最近、人工知能（AI）がキーワードとして出てきました。人工知能を理解しないと、第四次産業革命や新しい時代のテクノロジーを語れないと思い、人工知能を取り入れている会社に出向き、何に取り入れているかを教えてもらいました。よく「最後は人間の感性に人工知能は勝てない」と言われますが、最先端を見た率直な意見は「そんなことはない。その部分も置き換わる」と思いました。2年後にはアメリカのGMが無人自動車を市場に出すと言っています。この前、日産の新型リーフに試乗しましたが、縦列駐車や車庫入れがボタン一つでできるのです。ハンドルやアクセル、ブレーキ操作が不要です。その時に思った以上に世の中を変えていくスピードが速いと感じました。本日は自動車教習所を経営されている方もいますが、これからは自動車教習所では縦列駐車を教わらなくなりますよ（笑）。

これだけ世の中が変わっていく中で、産業政策も含めてかなり国は前を出ていっていますが、どの産業が育つかは国にはわかりませんよ。もちろん投資をすべきところは投資をすべきですが、今の経済界と政界の関係を見ていくと、今のままではイノベーションは生まれません。経済界は政治の顔色を伺い、政治の世界は経済界が認める範囲の改革しかやらない。賃上げをしてくれと言え、賃上げをしてくれる経済界。お金がないと言え、3000億円を出してしまう経済界。このような状況の中、なぜ経済界から「おかしい」という声が上がらないのですか。よく安倍晋三総理にモノが言えないと言いますが、私は言いすぎて怒られているくらいです。今、日本で一番安倍総理にモノが言えないのは経済界ではないでしょうか。昨年、幼児教育無償化費用を含めた3000億円の拠出を求められましたが、あれはみなさんも負担するものです。経団連と経済同友会と日本商工会議所だけが負担するのだろうと誤解をしている人もいますが、違います。この負担は北海道から沖縄までの全ての企業です。なのに、なぜ地方は声を上げないのでしょうか。しかも、経団連はたった1350社の加盟で、会長は製造業からしかたないのです。今、地方の経済の雇用を支える7割はサービス業です。いつまでも重厚長大であることに疑問を呈さないことが不思議です。そして、日本商工会議所も中小企業の団体にも関わらず、商工会議所の会頭は大企業しかたない。商工会議所の会頭になるためには、業務を回すために5人ぐらいを事務局に自社から出さないとならない。中小企

業で5人の社員を出せる会社があるでしょうか。だから大企業の人しか会頭になれないシステムなのです。このことを変えられるのは政治ではなく経済界です。だから今の経済界の状況を見ると「民間、民間」と言っていますが、民間もたいしたことはないと思っています。こういう財界活動をしている人よりも、仕事に邁進して地域で頑張っている中小企業の親方のほうがよっぽど立派です。

若い経営者の皆さんに最近願うのは、自分たちの将来を思うなら財界活動をして将来叙勲をもらおうと思うよりも「この日本経済をよくするために自分の会社が立っていきしかないのだ」という思いを持ってやってもらいたいということです。なぜ「クロネコヤマトの宅配サービス」ができたのか。それは政治の顔色を窺わなかったからです。当時の郵政省と大喧嘩をして、郵政省に潰されるか、それとも役所を変えるかという戦いで勝った社長が小倉昌男さんです。経済界にお願いしたいのは、良い意味での「アニマルスピリット」をもう一度取り戻してほしい。政治は政治でやるべきことをやる。経済は経済でやるべきことをやってもらう。そういう緊張感があって、いい意味での切磋琢磨をしていかなければいけないと思っています。ただ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでは空気は変わらない。変えるのは、それ以降だということです。なんせ世論調査では、今に満足している国民は史上最多の7割です。これを見た時に、今の日本は完全に「ゆで蛙」だと思いました。7割の人間が満足をしている中、改革をしようとしても誰もサポートはしてくれない。不満足だから改革をしていくのです。このままではいけないと思う時はいつなのだろうか。私はその時に向け何をすべきかを考えています。今日は横須賀だけでなく、横浜の方もおいでいただいていますので、私の考えていることを少し自由に話していきます。

なぜ日本は47都道府県なのですか。誰が決めたのですか。誰も決めていないのです。法律でも決まっていけないのです。それを考えた時、オリンピック・パラリンピックが終わった後、一つの発想としてあるのが、もう一つ県があってもいいなと思っています。その一つは横浜です。神奈川県だけ日本で唯一、一つの県に政令指定都市が横浜、川崎、相模原と3つあるのです。政令指定都市は県とほとんど同じ仕事ができます。権限がおりにいるからです。神奈川県で力のある3つの都市は県がタッチをできない。それなら県は何をやるのでしょうか。そして、この3都市からも県議会議員は選出されているのです。その都市にも市議会議員はいるのです。一方で、神奈川県庁は横浜にあるのです。なぜ仕事のないところに県庁があるのですか。役所は仕事のあるところにするべきです。横須賀市役所が横浜にあるなんて考えられますか。横須賀市民のために働くから、横須賀市役所は横須賀にあるのです。なぜ仕事や権限が及ばない横浜市に神奈川県庁があるのでしょうか。政令指定都市の横浜、川崎、相模原の3市は、少なくとも横浜と川崎は神奈川県から抜けて、「横浜県」や「川崎県」として2つになっても、1つになってもいいと思います。そして、神奈川県庁は横浜市から抜け、分割して一つは三浦半島の仕事をするために三浦半島に県庁を置き、もう一つは神奈川県へのあたりの藤沢市あたりの西湘地域で、横浜や川崎、相模原以外の仕事をする。そういうふうな仕事の近い場所で仕事をするという当たり前の形にしていきたい。

枠組みを変えていくことで、人口減と高齢化で縮小することを考えず、どうやったらやっていけるかを自ら考えていけるかどうかです。私が農林部会長の時に、国内だけでは人口減と高齢化で日本人の胃袋は小さくなるばかりなので、海外市場に目を向け、海外輸出の農産品に力を入れてきたのです。農協の皆さんには「買ってくれるところに行こうではないか」と、改革をずっとやってきたのです。そして今年過去最高の農産品の輸出額になりました。ようやく意識が変わってきました。日本とEUのEPA交渉が大筋妥結しました。大きなきっかけになったのは、今までなら日本酒も一升瓶、四合瓶はそのままの瓶では輸出できなかったのをEU側に承諾させ、そのまま輸出できるようにしたことでした。貿易自由化は日本人の発想を変えていきます。これは農業界だけではなく。

私は自民党の筆頭副幹事長として二階俊博幹事長の下で仕事をしていますが、年末に二階幹事長が中国に行きました。中国と今後日本はどういう関係を結んでいくべきかが、日本の大きな課題です。短期的には北朝鮮ですが、中長期の最大の課題は中国です。その時、日本のプラスに代えられるものはどこか。二階幹事長に何の話をしてもらうのかを考えるのも、私の仕事です。そこで最近、中国の習近平国家主席が何を話しているかを調べたところ、インドのモディ首相が、全く同じことを言っているのです。「トイレ革命」です。中国とインドの両トップが「トイレ」と言っているのです。これは国民の衛生環境を整えるのが、国家として死活問題となっているからでしょう。ここは日本がいけるところだと思いました。日本は世界で一番トイレがきれいで、最先端をいっています。そこで考えました。習近平は若いころ、大変貧しい山村で大変な苦難の道を歩きました。そういうところに、LIXILやTOTO、積水ハウスのいいトイレが日本の協

時間をどうやって使うべきか。何をやるべきで、何をやらないかを考えています。そして日本の政治家にどういう時間を与えるべきかを考えてほしいのです。

私は今年何とかしていきたいと考えていることは「国会改革」です。こんなに総理や外務大臣、防衛大臣が国会審議に張り付かなければいけない国はどこにもありません。一年間でその国のトップがどれだけその議会にいるかを比較してみました。日本と同じ議員内閣制のイギリスは36日、ドイツ12日、フランス11日、アメリカのトランプ大統領はほぼ0です。しかし、安倍総理は100日以上です。議会にいる時間はイギリスで59時間、安倍総理は369時間。先日、河野外務大臣は国会答弁があるということで、野党から呼ばれたので、アジアの国際会議を欠席しましたが、結局、質問はありませんでした。今の世界の情勢、中国の習近平、ロシアのプーチン、北朝鮮の金正恩、アメリカのトランプと世界の国は自国の利益を最大化するためにむき出しの権力争いをしている中、日本の総理や外務大臣がすることは国会の席にいてでしょうか。この改革は野党にも協力してもらわないとできません。しかし今の野党にこの話をしても進まない。民進党と希望の党は決めたことが党に戻れば引っ張り返される。立憲民主党は来年の参議院選挙を考えれば、安倍政権と対峙したほうがプラスと考えるでしょう。本当にこのままでいいのでしょうか。野党も枝野さんが総理になって、今の安倍総理と同じように国会の席に座っていただきたいということです。政治家は使うべきものです。私もみなさんに使いがいのある政治家を目指しています。みなさんも日本の総理の使い方を考えてみていただきたいです。

そろそろ時間になりますが、今日は「日本も横須賀もこんなもんじゃない」という思いをテーマに話をしました。横須賀についても思うことはいっぱいあります。「横須賀はこんなもんだ」とあきらめている方たちに、いや「横須賀はこんなもんじゃない」というものをしっかり見せていきたい。おかげさまで上地克明市長が誕生し、国と連携できる街づくりができて来ています。今まで長年通らなかった国道357号線の延伸が決まって、追浜まで直結します。来年は三浦縦貫道の延伸が決まり、高円坊まで伸びます。2年前には横浜横須賀道路の通行料金が下がり、三浦半島のインフラは間違いなく改善します。これで動かなかったことが動き出すと、町の空気が変わってくると思っています。安倍政権の功罪はいろいろあるかもしれませんが、これだけ安倍政権が長く成功しているのはスタートダッシュに成功したからです。日銀総裁を変えた、大規模金融緩和の実施、株高、そして円高から円安にふれたことで、経済の空気が変わったのです。もしかしたら変わるかもしれない、という期待感が国民の空気を変えた。横須賀もそうなればいいなと思っています。今日は住友重工の秋本所長もいらしていますが、ありがたいことに川間社宅跡地を横須賀市に無償提供していただきました。そして浦賀ドッグの地質調査はあと1、2ヶ月ほどで終わると思いますが、この土地が大丈夫ということになれば、その跡地を何に使うかを考えていくことができる。横須賀にはまだ動かそうと思えばできることがたくさんあります。経済界のみなさんにも、できることはたくさんあります。例えば、県立保健福祉大学も、もっと魅力的な大学都市の中核になる可能性があります。この県立保健福祉大の中に老人ホームも保育園も幼稚園も全部つくりたいと思っています。人生100年、0歳から100歳までの人々の笑顔があふれるコミュニティーをつくりたい。横須賀中央駅は40万人の中核都市にも関わらず、なぜ駅前がロータリーではないのでしょうか。この地域の発展を考えたらまだまだできることはあるのではないのでしょうか。追浜は今、空気が変わってきています。国道357号線が伸びたり、ベイスターズの施設が集約されて新しい寮ができたりします。試合開催数が増え、追浜駅前再開発が動き出します。そういったことがこの横須賀の中心にも波及すべきだし、この横須賀ロータリーもこれだけ名だたる横須賀、三浦の方が集まっているのですから、みんなの力を集めればいろいろなことができると思うのです。ロータリークラブが一つになるかはわかりませんが、この日本も横須賀、三浦も「こんなもんじゃないぞ、まだまだできることはたくさんあるぞ」ということをしっかり共有してほしいです。

国の仕事をするのが国会議員の仕事ですが、もう一つは私を選んで国会に送り込んでいただいている横須賀と三浦の地域のみなさんのために何ができるかを考え、自分の力をいかに発揮していくことは大きなやりがいです。今年一年間しっかり取り組んでいきますので、どうぞみなさまよろしくお願ひいたします。長い時間本当にありがとうございました。

<閉 会> 13:30 小林 会長

週報担当 淡路 なな恵